

しまつよしひろこう 島津義弘公と始良市

せんごく ぶしやう
戦国武将として有名な島津義弘公は、始良市として
も関係が深い人です。武士にとって大切な初陣（初め
ての戦い）は岩劔城の戦いで、それから平松城（現重
富小学校）・帖佐屋形（現帖佐稲荷神社）・加治木屋形（現
柁城小学校）の3つの城に住み、加治木屋形で亡くな
りました。義弘公の人生は戦いの連続で、鹿児島だけ
でなく九州各地や朝鮮半島に行き、いつも先頭で勇敢
に敵と戦っていました。天下分け目の関ヶ原合戦では
敵中突破を行ったことで有名です。

また、義弘公は抹茶でお客様をもてなす茶の湯や病
気を治す薬の知識なども持っていて、家臣や住民たち
のことをいつも気にかける良い殿様だったようです。
始良市で今も行われている「くも合戦」や「太鼓踊り」
などの伝統行事が義弘公によって始められたと言われ
ていることは、昔から義弘公が人々に愛され誇りに思
われてきた証拠です。

歴史民俗資料館には、郷土の英雄・義弘公にゆかり
のある品々を展示しています。



義弘公が使用した縦笛
『一節切』



義弘公が作らせた茶道具
『宇都築跡の抹茶碗』



義弘公を描いた絵
『尚古集成館蔵』



交通案内

- JR 日豊本線帖佐駅下車徒歩 10 分
- バス 帖佐駅前バス停下車 徒歩 5 分
- 自動車 鹿児島市街地から 30 分
鹿児島空港から 30 分
- 九州自動車道
桜島スマートインターチェンジから 10 分
始良インターチェンジから 15 分

■ 開館時間

9:00 ~ 17:00 (最終入館 16:30)

■ 休館日 月曜日 (月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日)

毎月 25 日 (日曜をのぞく)

年末年始 (12 月 29 日 ~ 1 月 3 日)

入館料 無料



資料館 HP

始良市 歴史民俗資料館

〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498 番地
TEL 0995-65-1553 Fax 0995-66-5820

あいらし
始良市
れきし じんぞく
歴史民俗
しりょうかん
資料館



じょうもん へいあん 縄文～平安時代

【今から約 13000 ～ 800 年前】

市内には 230 箇所以上の遺跡があり、昔の人びとが生活した跡や使った道具がたくさん見つっています。市内最古・約 13000 年前のムラがあった建昌城跡、約 4500 年前のかごやドングリが奇跡的に見つかった前田遺跡、約 1200 年前に建てられた大隅国分寺の瓦を焼いた宮田ヶ岡瓦窯跡などの貴重な遺跡は、始良市が大昔から人や物が行き来する住みやすい場所であったことを伝えてくれます。



前田遺跡で見つかったかご

かまくら あづちももやま 鎌倉～安土桃山時代

【今から約 800 ～ 450 年前】

鎌倉時代以降、県本土の中央に位置している始良市は、力を持った豪族たちの勢力争いの場になりました。市内各地に勢力を持っていた蒲生氏・加治木氏・平山氏と、新しく領地を広げようとする島津氏の長く激しい戦いの跡として、山城跡が数多く残されています。この戦いに勝った島津氏は、島津義弘らの活躍により九州一円に勢力を伸ばしましたが、最終的には天下統一を目指す豊臣秀吉に敗れました。



加治木氏の墓といわれる日木山宝塔

えど 江戸時代

【今から約 450 ～ 150 年前】

徳川家康が始めた江戸時代には、鹿児島(薩摩)藩が置かれ、市内は 5 つの郷(加治木・帖佐・重富・山田・蒲生)に分かれていました。このうち加治木と重富は、島津家の分家の領地であったため、殿様たちの立派な墓が残されています。江戸時代の初めには、薩摩焼の伝統が始まり、さまざまな形や色の器が作られました。また、江戸時代の終わりには、島津斉彬が別府川沿いに製鉄所を造り、大砲の原料となる質の良い鉄を生産しました。



薩摩焼の茶碗

めいじ しょうわ 明治～昭和時代

【今から約 150 ～ 40 年前】

明治維新により江戸時代が終わると、外国との交流が盛んになり、新しい世の中に変わりました。この急激な変化の中で西南戦争が起こり、西郷隆盛に従った多くの若者が亡くなりました。その後、日清・日露・日中・太平洋と外国との戦争が続くこととなります。このような不安な世の中で始まった新しい学校については当時の教科書や写真、新しい産業については帖佐松原塩田の写真や記録が伝えてくれます。



帖佐松原塩田

昔のくらしの道具

かやぶき屋根の民家は、木津志地区に 100 年以上前に建てられた家の「ナカエ」と呼ばれる部分で、いろりや自在かぎ、かまどなどは昔のままです。米づくりや山・海の仕事で使った道具は、当時の人々の暮らしを伝えてくれます。稲わらを編んで作るカマスは帖佐地区の特産品で、「帖佐カマゲ」と呼ばれていました。当時の写真には、稲わらの形を整える作業を手伝う子どもたちが写っています。



さまざまな農具

ちよう さ にんぎよう 帖佐人形

素朴で温かみのある帖佐人形は、鹿児島県を代表する土人形です。現在のこいのぼりや飾りかぶと、ひな人形などと同じ意味合いで、大切な子どもが病気にかからず健康に育つように願いを込めて贈られていました。節句人形といえます。江戸時代に始まった人形作りは、大正時代に最も盛んになり、当時高樋地区には 40 軒も窯元がありました。現在は 1 軒がその伝統を引き継いでいます。



色あざやかな人形たち